



鹿屋市消防出初式

昔

昭和35年1月6日



今



平成31年1月6日に開催された出初式での放水訓練

新春を飾る伝統の消防出初式。分列行進や消防操法の披露、放水訓練、消防功労者表彰など、式の内容は当時も今も同じ。消防車両が時代を感じさせますが、消防団員の服装も今とほぼ変わりません。昭和35年当時の会場は鹿屋小学校の校庭。その後、会場は幾度も変わり、平成28年以降は田崎多目的運動広場で開催されています。



昭和35年の出初式での永田良吉市長による「観閲」

カノヤタイムトラベル

昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ！

大隅で最も栄えた「鹿屋市」かのやいら



▲昨年11月の秋祭り歩行者天国の様子。当時は月に6回も、こんな光景が見られたのでしょう。

藩政時代、町人が居住する商業地区は「野町」と呼ばれていました。鹿屋の野町は、現在のかのやイベント広場から本町通りを抜け曾田町までの一帯にありました。しかし薩摩藩では、強固な封建体制のもと、年貢や専売制度により、展示される品物も少なく、野町はあまり発展しませんでした。そこで、これを補う形で各地に定期市が開かれるようになりました。鹿屋中心部の市の起源は古く、16世紀の終わり頃から始まったと伝えられています。その後、ますます盛んになり、江戸時代には月6回の定期市「六斎市」が許可され、毎月4と8のつく日に、野町付近で市が開かれました。「三國名勝図会」によると、この「鹿屋市」には毎回、高隈、串良、高山、大始良、始良(吾平)、大根占、小根占(根占)、佐多、田代、花岡、新城、垂水、さらに海を越えて山川、指宿など、域内外から多くの人が集まり、船や馬で、塩、大豆、雑穀、煙草、魚類、綿布など、様々な物が集まったとあります。農漁民の日常必需品の物々交換的な機能もあつたと言われている「鹿屋市」は大いに栄え、大隅の商業の中心地に発展しました。幕末の俗謡にも「田舎ぢやけれど鹿屋は名所月に六度の市が立つ」と歌われた「鹿屋市」。当時の庶民にとって、とても魅力的な空間だったことでしょう。

▶ 鹿屋は、交易の會所にして市、古より今に至りて絶ず
を紹介している。(天保14年(1843年)編纂『三國名勝図会』)